

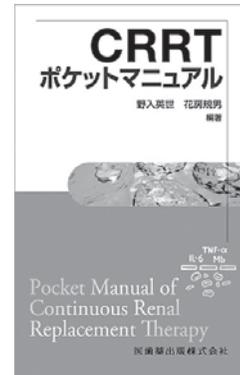
●書評

B O O K R E V I E W

BR

『CRRT ポケットマニュアル』（野入英世・花房規男 編著）

●新書判, 256 頁 ●定価 2,940 円(2,800 円+税) ●医歯薬出版



この度、CRRT(Continuous Renal Replacement Therapy: 持続的腎代替療法)に関するポケットマニュアルが、この領域の第一線の臨床現場で活躍されている東京大学医学部附属病院血液浄化療法部の先生方を中心に編集された。

CRRT は海外の ICU などでは日常的に施行され確立された治療法であるが、日本ではまだこの用語さえなじみが薄く、一般臨床医の方々は治療内容がよく分からない点が多いと推測される。CRRT は以前は腎臓疾患に対して血液透析の延長という概念で施行されることが多かったが、本書に記載されているように、腎臓疾患以外の non-renal indication として施行される症例が増加している。

本書の特徴は、まず総論が「すぐ治療開始するために」「医療用器材」「トラブルシューティング」「よりよい理解のために」で構成され、一般臨床医、研修医の方々にも、CRRT の概要がわかりやすくコンパクトにまとめられている。CRRT はどのような病態に、どのように施行するかの概説から始まり、具体的な補充液・透析液の内容、膜の選択、施行するためのカテーテル、施行中の抗凝固剤などについての解説、さらには CRRT 施行中における血圧低下、回路内の凝固、出血、電解質異常など、種々のトラブルが発生した場合の対処方法もわかりやすく書かれている。総論だけの通読で、CRRT の施行に必須な重要ポイントの理解が可能となっている。

さて近年、心・腎・肺・肝・脳連関が注目されて、とくに救急・集中治療領域では敗血症性ショック、多臓器不全、急性肝不全、重症急性膵炎、ARDS、薬物中毒など種々の重症患者に対して CRRT が施行され救命率が上昇している。本書では、各論としてこうした個々の病態の概説、実際

の治療方法などがわかりやすく書かれている。CKD(慢性腎臓病)という概念は、医療スタッフ以外の一般人にも浸透しているが、最近では以前 ARF(急性腎不全)と呼ばれていた AKI(急性腎障害)が注目され、とくに AKI を惹起しやすい敗血症性ショックに CRRT を施行する症例が増加している。この領域では本書の編者、野入先生・花房先生の研究室が臨床・基礎研究ともに多数の成果を発表し、日本における opinion leader である。

さらには最終章として「CRRT 施行中の検討項目」において、最近の輸液、栄養、薬剤の実際、また、CRRT をより深く理解するために海外大規模臨床研究、国内治療の現状と方向性が簡潔にまとめられている。

本マニュアルは、幅広い領域の医療関係者にじつに有用であり、周術期の CRRT は外科の先生方、頭蓋内疾患の CRRT は脳外科・脳神経内科の先生方、小児期の CRRT は小児科の先生方にも、血液浄化・集中治療・救急医療の先生方とともに、ぜひ診療の参考にして頂きたいと思う次第である。

本書は、CRRT を簡潔に分かりやすく解説するばかりでなく、かつ充実した内容となっており、ぜひ白衣のポケットに入れ積極的に利用されることを希望する。また、本書を読んでこの領域に興味をもたれ、評者をはじめ、野入先生、花房先生を含め急性血液浄化分野に携わる医療者の仲間に加わっていただける先生方が増加することを、期待している。

(新松戸中央総合病院腎臓内科・腎透析センター、
中村 司/なかむらつかさ)